

平成 30 年度

事業所名 : グループホームひだまり上郷

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800084		
法人名	株式会社WAKABA		
事業所名	グループホームひだまり上郷		
所在地	岩手県遠野市上郷町佐比内46-23-2		
自己評価作成日	平成30年11月4日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390800084-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・地域との関わりの機会を増やして、活気の有る事業所を目的に日々努力して行きたい。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、集落の中心部に位置し、周辺には小学校、保育所、郵便局、住宅、田畑などがあり、近くに河川が流れ自然や生活環境に恵まれた場所に立地している。市社会福祉協議会の運営するショートステイと夜間想定避難訓練を共同実施したほか、老人クラブの「なごみカフェ」への参加、保育所のハロウィン、地域有志のマンドリンの受け入れ、地域連絡会議への出席、神社のお払い、農家からの野菜の差し入れなど、地域との様々な交流に力を入れている。また、運営推進会議による地域の行事への参加提案や職員の備品や用品の確保、行事の追加提案などを運営に反映させているほか、職員の資格取得費用の支援、取得後の手当ての支給など、知識の習得と技術の向上による、利用者へのより良いサービスの提供に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

平成 30 年度

事業所名 : グループホームひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、サービス向上に向けて話し合いや実践出来る様に取り組んでいる。	法人の基本理念に基づきグループホームで定めた理念を掲示し、職員で共有し、日々の業務に反映させるよう取り組んでいる。	理念に基づくよりきめ細かな利用者への介護サービスの提供に向け、その具体化に向けた目標や方針を定めるなど、職員による話し合いを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ・近隣との繋がりを大事に思っている。まだまだ今後も交流の機会を増やしていきたい	地域主催の連絡会議や地域の老人クラブの各種行事へ参加し、保育園児の訪問、地域有志のマンドリン受け入れ、神社のお払い、農家の野菜の差し入れなど、地域との様々な交流に力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献に関してはほぼ取り組みが無い、今後の課題と思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見やアドバイスを頂きながらサービス向上に向けた取り組みを日々検討しています。	委員提案の老人クラブの行事への参加や避難訓練の留意事項の提案などを行事や日常の業務に反映させている。	運営推進会議の議事録を作成し、職員への周知を図りながら委員からの提案をより良い介護サービスの提供に一層つなげる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に応じて意見やアドバイスを頂く為に出向く事も有ります。	運営推進会議に出席している市の担当職員から、行政情報の提供や助言を受けている。また、市主催の研修会や実地指導会に出席し、職員に周知している。介護認定や生保事務の代行を行なっているほか、市からのメールで感染症予防等の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点では身体拘束はしていない、今後も拘束をしない考えで話し合いをしています。	市の指導により身体拘束マニュアルを作成し、業務に反映させている。夜間トイレ対応のセンサーを活用しているが、身体拘束の事例はこれまでもない。玄関の施錠も夜間のみであり、特に、言葉づかいには職員間で注意し合うなど、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持つことが少ない、今後は積極的に取り組みたい、防止の注意は心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修の機会が少ない事から、職員会議の際に研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定の際には直接家族さんに出向き説明し了解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議を通して意見交換・提案の聞く機会を作っている。	家族の医療機関の受診に来所した際などに、意見や要望等を聴きとっているほか、入居前にお世話頂いた日常生活自立支援事業の関係者からも情報を得ている。毎月、活動状況の写真やメモを家族に送り、意向を伺っている。利用者に寄り添い、食事や買い物の要望を受けいれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く機会には設けているが全て反映されていると言われない。	毎月の職員会議や2月ごとの研修会の機会に職員の提案や要望を受け、業務に反映させている。大型のゲーム機や日用品の確保、文化祭出品作品の作成、追加行事などの提案を取り入れている。資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日の様に一度は来所し、条件等色々と同じ、向上心を持って働けるよう日々整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会の勧め等は快く実施の促しを試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が今一少ないと感じている、積極性が不足している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問調査を行い、ご本人様が遠慮せず心配な事等話して頂ける雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望を聞き、出来る範囲で、その要望に添ったケアが実施出来る様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ゆっくりとお話を伺いながらその時々に応じた、支援を心掛けるよう日々検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人の状況に応じた日々の変化を見極めながら関係づくりを築く様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と本人様との関係性を大事に出来る範囲で協力体制づくりを心掛けて行きたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方々の出入りが少ないかなと感じている所です、今後途切れない努力が必要と感じています。	知人、友人が訪れるほか、買い物や食材の購入と一緒に外出した際に、自宅に寄って花やぶどうの収穫も行なっている。地域のお祭り見学や神社のお払いなど、地域との関わりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そんなに多くのぶつかり合いは少ない方です、日々の生活を送る際に交流の場が多く持てるような声掛け作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、連絡が来ることはほとんどないが、必要があれば相談・支援が出来る様に心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望が聞けない方は日々の生活の中から把握できる様努め本人本位のケアが出来る様常に検討している。	モップがけ、調理の前準備などの業務のお手伝いや折り紙、塗り絵、編み物などの趣味、季節の衣服の着替えなど、利用者一人ひとりの経験や知識を大切に、希望に沿った取り組みを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況や生活環境を、本人様・家族様からの情報を基に共同生活が送れる様な支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の身体状況、生活リズムを理解しながら、本人様の状態観察を常に行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特別な計画書は無い、但し話し合い・申し送り時に良いケアが出来る様努力している。	居室担当から、利用者の状況を聴き取り、3か月ごとに短期の見直しを行い、6か月ごとにアセスメント、モニタリングを経て家族の意向を確認し、計画を策定している。かかりつけ医の指示も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子気づきをその都度個別に記録に記入し職員間で情報の共有を行い実践に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族様の状況やニーズに対応し常に何事にも捉われない支援作りに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部の地域の方の支えに甘んじて子供達との関わりを大事にした楽しみを持つことが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては家族様の希望に添った対応を心掛けている。	入居前のかかりつけ医の受診者は3名で、その他6名は訪問診療に変更している。受診は家族同伴が原則で、都合により職員が同行する場合もある。皮膚科などの特別科も同様である。歯科は訪問診療(入れ歯の矯正)である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常勤は無し。日々の観察を行い必要に応じてかかりつけ医師のアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に置いては常に相談出来る様必要に応じた関係づくりを大事にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行っていない。状態の変化に応じて、家族と話しあい、施設との連携を密にした対応を心掛けている。	看取り実績は無く、重度化した場合や終末期には改めて家族の意向を確認することになっている。法人として、看取りの対応について方針を決めていない。	入居時に家族等に重度化や終末期の対応について、説明、同意を得るため、法人としての方針や職員の対応に向けたマニュアルなどの作成について、検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は施行して居ない、職員会議の際や時折の状態変化に応じて話し合いをする様に心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は実施済み。地震災害については未実施今後の課題と居ます。	年2回、夜間想定を含めて、避難訓練を実施している。本年は、隣接する社協のショートステイと一緒に、夜間想定を消防署員立会いで実施した。防災計画は策定中で、ハザードマップ、避難場所の確認も行っている。消防団へ訓練への参加を要請をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護を大切にした言葉選びや対応を常に心がける努力を行っている。	文章化された個人情報や事務室で管理し、アセスメント情報などは、データセンターと契約しオンラインで管理している。パンフレットへの写真掲載は予め家族の同意を得ている。排泄の失敗などは、利用者の心情に配慮し、居室のトイレで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様にできる限り寄り添い本人の希望を取り入れる様な支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人様を尊重して自由に過ごして頂く様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った、服選び、自分の好みを優先した対応を心掛けている、お化粧品に関しては本人任せです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを聞き出して出来る範囲内での対応を心掛け自分で出来る事を手伝って頂いて居ます。	献立は職員が作成し、利用者も同行して地域の旬の野菜を購入している。家族や農家の差し入れ、特産物による郷土食(ひつつみなど)も食卓にのぼる。花見のチラシ、正月のニシメなどの行事食や誕生日の手作りケーキ、敬老会の幕の内弁当など、希望に沿って提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分はチェックして不足分を工夫しながら摂取の促しに努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、本人に応じた対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りに於いては、本人の意向に添った対応で、誘導や交換を促して意識つける様にしています。	排泄チェック表により、利用者ごとのパターンを把握し、動向を見守っている。全員居室のトイレを利用し、夜間のセンサー利用は1名だけである。布パンツ4名、リハビリパンツ5名のうち、1名が尿取りパットを併用している。介護は見守り程度となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事バランスに於いては注意しています、排便確認もチェックする様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日設定はしていますが、出来る範囲で本人の意向に添うように努めています。	週2回の入浴とし、日曜を除く毎日の午後、バイタルチェックの後に入浴している。日程変更や洗髪を嫌がる方には、様子を見ながら対応している。入浴時間、会話、歌など、利用者の個性に応じて介助している。異性介助も問題ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	養護等に関しても本人の意向に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化は常時気を付けている、内服・外用薬に関して不明な点はその都度医師や薬局に問い合わせています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思を尊重、それぞれの好みに合わせて出来る限りの対応をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気候に合わせて、無理のない様に気を付けています、地域の行事は出来る限り参加しています。	暖かい日は、前庭で日向ぼっこをしている。「なでる牧場」への散策や花見、上郷祭り、地区センターの文化祭、小学校の運動会に出かけている。バスハイクでは仙台の水族館に行った。日用品や食材の買い物に同行したり、家族とお墓参りに出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い出し時に必要に応じて支援をしている、殆どの方から買い物希望は無いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在手紙のやり取りは無い、電話はまれに希望有り、その都度の対応としています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工作等で季節感・写真を貼りだして、本人さん達が居心地良く過ごせるような工夫をしています。	南向きの広いガラス戸と天窓から降り注ぐ、明るい光の中、淡い色調で、広々としたロビーに食事用テーブル、ソファが配置され、利用者の作品、季節の置物、テレビなどがあり、落ち着いた雰囲気である。利用者はそれぞれの場所で、新聞を読んだり、趣味にいそしんでいる。温度は大型エアコン、パネルヒーター等で、適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の自由な、交流・会話を大事に過ごして頂いて居ます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット以外は個人の持ち物にて、本人の好みを大事にしています。	エアコン、パネルヒーター、ベッド、トイレ、洗面台、移動式ナースコール、テレビ端子が設置され、タンス、衣装ケース、家族写真、テレビ、時計などが持ち込まれ、利用者ごとに居心地の良い配置となっている。西日にはカーテンで対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほぼ自由に過ごされています(中)外の外出は職員の都合になることが多いです。		